

インターネット会議室

「明日の岐阜を考える」

～岐阜モデル研究会～

議 事 録

平成15年3月

財団法人岐阜県産業経済振興センター

序．インターネット会議室を始めるに当たって

インターネット会議室を始めるにあたって

杉田伸樹

現在、日本は長期の景気低迷が続いており、それからの脱出が急務となっています。経済の構造改革の波は否応なく地方を直撃しています。こうした中で、岐阜県では、県民・県内企業を守るため、中央政府に依存せず独自の政策を立案・実施していくことを目指しています。地方分権を実質的に進めるためにぜひとも必要なことです。

当センターでは、昨年12月に「経済トップセミナー」として、神野直彦東京大学経済学部教授の講演と、神野教授、藤井威地域振興整備公団総裁、梶原拓岐阜県知事の皆さんによるパネルディスカッションを実施して、岐阜県独自の経済・社会政策を考えるきっかけとしました。この議論をさらに深めるために、インターネット上の会議室という仕掛けを用意しました。この方法の良いところは、地理的に離れていたり、共通の時間をとることが難しい参加者も議論に加わってもらえることです。また、インフォーマルな雰囲気を作り出すことも得意なので、「ガヤガヤ会議」風な運営ができ、良い意見交換ができることを願っています。

この会議室の特徴の一つとして、二つのグループの議論が並行して行われることがあります。同じテーマについて年齢や所属の構成が少し異なる二つのグループで同時並行的に議論を行うことによりテーマを深掘りできるのではないかと期待をしています。

参加者のご紹介です

杉田伸樹

まず始めに、この会議室の参加者のご紹介を致します。

東京大学経済学部教授 の 神野直彦 様

法政大学経済学部教授 の 黒川和美 様

岐阜大学産官学融合センター長 の 八嶋厚 様

日本耐酸塩工業(株)社長 の 堤俊彦 様

当センター理事 の 谷博久 以上5名です。

議長は私、理事長の杉田が努めさせていただきます。

会議の進め方について

杉田伸樹

それではインターネット会議室 「明日の岐阜を考える」～岐阜モデル研究会 を開会いたします。

この会議室では、全体を大きくわけて3つの議題について検討していきたいと思います。

まず、議題1「地域経済社会の活性化」では、現在の日本及び岐阜県をとりまく経済社会の構造変化を分析することで、地域経済はこれからどうしていくべきかを考えていきたいと思います。

次に、議題2「公的部門のあり方」では、議題1で議論した「地域経済社会を活性化」するために、公的部門の果たすべき役割について、スウェーデンモデルを例に考えていきたいと思います。

最後に、議題3「岐阜モデルの提案」では、岐阜から日本を変える政策として「岐阜モデル」に必要なものは何かを考えていきたいと思います。

議題 1 . 「地域経済の活性化」

議題 1 「地域経済社会の活性化」

杉田伸樹

岐阜県独自の経済・社会政策を検討するのに先立ちまして、その前提条件となります、「地域経済社会の活性化」をテーマに議論していきたいと思います。

バブル崩壊後の景気低迷が長期化するなか、グローバル化、情報化、少子・高齢化など地域経済社会をとりまくトレンドは大きく変化しています。現在、日本あるいは岐阜県が直面している状況をどのように考えれば良いのか、まず、神野先生にご意見をお伺いしたいと思います。

新たな産業創出の必要性

谷 博久

神野先生は、2002.12.18のご講演の中で「今のような歴史の転換点に差し掛かったときに、何をすればよいか。それは、新しい産業構造を創り出すしか、次の社会を創り上げることは出来ません。」と申されておりますが、「技術革新」等が約50～55年のサイクルで変動・循環する説に立てば、日本の場合1945年～2000年で「技術革新」等の歴史の転換点に差し掛かっているということで理解できます。我が国が、かかる「歴史の転換点」に新しい産業構造を創設しきれず、神野先生のご説明によれば、「特に90年代の政策は『市場回復』という一兔を追った」というご指摘がありました。『転換点』の政策として、日本の、あるいは岐阜県の現状を踏まえてご提言を加えて頂けると幸いです。

新たな産業創出の必要性（ ）

谷 博久

日本の場合、90年代は産業構造の「歴史的転換点」に立っていたとみることが出来ますが、その「歴史的転換点」に立っていた我が国が、1992年～2001年の十年間に行って来たことは、約140兆円の経済(景気)対策が中心であったという記憶は新しい。それでは、技術革新とマッチし、「歴史的転換点」に的確に対応する産業とは例えばどんなものか。

例示してみると、(1)情報技術産業(2)生物・生命産業<食品、薬品、人工血液、遺伝子、バクテリア等>(3)高分子工業・ナノテク産業(4)新素材産業 等『知識集約型』の技術の質が問われ、しかも米・欧などとの国際競争が激しい分野です。

現在、岐阜県においても、これらの産業の立ち上げが政策課題になっておりますが、立ち上げの具体的な達成プランの策定・実行が急がれる処です。これらの産業の市場は国外・国内の関連分野も含め数十兆～百兆円台とも言われ、「経済成長」にとっては有望株です。

岐阜県は「IT」以外の『知識集約型』産業で、今後どの分野を選別、重点化して投資・育成するか『戦略』構築の検討を要するところです。

今の『不況』は、神野先生ご指摘のように「新しい知識や情報の『戦略新産業』が出てこない限り続く不況」ということでは異論ありません。

岐阜県の資源の有限性、歴史的条件、財政的制約等を受けながらも、岐阜県にとって望まれる『戦略新産業』導入形態・対応等について、可能な範囲で併せてご提言願えると幸いです。

Re: 新たな産業創出の必要性 ()

進行 (杉田伸樹)

谷様ありがとうございます。

> 日本の場合、90年代は産業構造の「歴史的転換点」に立っていたとみることが出来ますが、その「歴史的転換点」に立っていた我が国が、1992年～2001年の十年間に行って来たことは、約140兆円の経済(景気)対策が中心であったという記憶は新しい。

後知恵で考えれば、景気が(少なくとも今より)良かったときに少しでも構造政策を進めておけば、今こんなにひどい状態にはならなかったのではないかという思いはみんな持っているのではないかと思います。

構造調整という言葉が脚光を浴びたのが「前川レポート」の頃だったことを考えれば、何でこんなに掛かっているのかとの気持ちはあります。

構造調整と人間重視をうまく組み合わせる知恵がなぜその時になかったかが、悔やまれます。

> それでは、技術革新とマッチし、「歴史的転換点」に的確に対応する産業とは例えばどんなものか。

> 例示してみると、(1)情報技術産業(2)生物・生命産業<食品、薬品、人工血液、遺伝子、バクテリア等>(3)高分子工業・ナノテク産業(4)新素材産業等『知識集約型』の技術の質が問われ、しかも米・欧などとの国際競争が激しい分野です。現在、岐阜県においても、これらの産業の立ち上げが政策課題になっておりますが、立ち上げの具体的な達成プランの策定・実行が急がれる処です。これらの産業の市場は国外・国内の関連分野も含め数十兆～百兆円台とも言われ、「経済成長」にとっては有望株です。

> 岐阜県は「IT」以外の『知識集約型』産業で、今後どの分野を選別、重点化して投資・育成するか『戦略』構築の検討を要するところです。

> 今の『不況』は、神野先生ご指摘のように「新しい知識や情報の『戦略新産業』が出てこない限り続く不況」ということでは異論ありません。

> 岐阜県の資源の有限性、歴史的条件、財政的制約等を受けながらも、岐阜県にとって望まれる『戦略新産業』導入形態・対応等について、可能な範囲で併せてご提言願えると幸いです。

岐阜県は「知恵産業」を振興していくという方針を掲げています。知恵を生む社会資本は人材(人間)です。人間重視と産業振興を結びつけることは決して荒唐無稽ではなく、知恵社会では一致するものです。

人材育成の重要性や産業育成の観点からのご意見を期待しています。

Re: 新たな産業創出の必要性 ()

神野直彦

岐阜の地域経済の発展を目指す時に、重要なことは原点を見失わないことだと思います。

発展とはenvelopの反対であるdevelopという意味です。つまり、ほどくという意味です。外から変形させられることは発展とはいいません。例えば、木が机に発展したとはいいません。卵が幼虫に変化するように、内包しているものをほどくことを発展するといえます。

したがって、岐阜の地域経済を発展させるとは、岐阜の地域経済が内包しているものをほどこことにすぎないと思います。

経済とは人間の生活に必要な有用物をつくり出すことです。岐阜で営まれている人間の生活に必要なものはなにかを観察することから新しい産業づくりは始まると思います。

人間の尊厳を高めるために意味のあるものをつくり出すことを目指し、儲かるか否かを考えないことです。

人間復興のテクノロジーを目指したイギリスのルーカス・プランは、「利潤第一の合理的生産」に対抗して、「社会的に有意義な生産」を目指しました。地方自治体は地域住民の創意工夫を生かして、「社会的に有意義な生産」を実現するために、技術開発センターをつくり、身体障害者援助、教育、医療などで開発が行われたのです。

スウェーデンのローカル・デベロップメント・グループも同様の運動です。

スウェーデンでIT産業が発達したのは、スウェーデンにおける人間の生活様式に起因している。スウェーデンの国土は広く、国民は分散して生活している。そのため地域経済の振興にはITが欠くことができない。

人間の生活様式が文化だとすれば、文化の要求することを充足する。その文化の充足に技術を革新するというループの形成が必要となる。

岐阜の生活様式が要求することを、岐阜が内包している人間の能力で充足する。岐阜はスウェーデンに地政的に類似している。しかも、既にITと福祉との結びつきも進みつつある。そうした文化と技術との関連の形成が重要だと考える。

Re^2: 新たな産業創出の必要性 ()

進行(杉田伸樹)

神野先生ありがとうございます。

- > 岐阜の地域経済の発展を目指す時に、重要なことは原点を見失わないことだと思います。
- > 発展とはenvelopの反対であるdevelopという意味です。つまり、ほどこという意味です。外から変形させられることは発展とはいいません。例えば、木が机に発展したとはいいません。卵が幼虫に変化するように、内包しているものをほどこことを発展するといえます。
- > したがって、岐阜の地域経済を発展させるとは、岐阜の地域経済が内包しているものをほどこことにすぎないと思います。
- > 経済とは人間の生活に必要な有用物をつくり出すことです。岐阜で営まれている人間の生活に必要なものはなにかを観察することから新しい産業づくりは始まると思います。

まさしくこれが原点ですね。「何が必要とされているのか。」を問うことによって自らの存在意義の再定義をするのだと思います。

ちょっと視点は違うのですが、「顧客満足」の考え方も似たところがあるように思います。「何で必要とされているか」という問いかけは、時には大変厳しいものになるのですが、その分、本質的だといえます。

その場合でも、「岐阜で営まれている生活のために」という視線の重要性を神野先生は強調されるのだとおもいます。「誰のために、何のために」という問いを失ったことが、現在の日本の経済・社会の混迷の根源的問題なのでしょう。

- > 人間の尊厳を高めるために意味のあるものをつくり出すことを目指し、儲かるか否かを考えないことです。
- > 人間復興のテクノロジーを目指したイギリスのルーカス・プランは、「利潤第一の合理的生

産」に対抗して、「社会的に有意義な生産」を目指しました。地方自治体は地域住民の創意工夫を生かして、「社会的に有意義な生産」を実現するために、技術開発センターをつくり、身体障害者援助、教育、医療などで開発が行われたのです。

> スウェーデンのローカル・デベロップメント・グループも同様の運動です。

> スウェーデンでIT産業が発達したのは、スウェーデンにおける人間の生活様式に起因している。スウェーデンの国土は広く、国民は分散して生活している。そのため地域経済の振興にはITが欠くことができない。

> 人間の生活様式が文化だとすれば、文化の要求することを充足する。その文化の充足に技術を革新するというループの形成が必要となる。

> 岐阜の生活様式が要求することを、岐阜が内包している人間の能力で充足する。岐阜はスウェーデンに地政的に類似している。しかも、既にITと福祉との結びつきも進みつつある。そうした文化と技術との関連の形成が重要だと考える。

スウェーデンと岐阜の類似は面白い視点です。岐阜県では、「モノ中心から人間中心へ」ということで、施策の再点検、組直しをしています。21世紀の社会資本は人間であるとの考えで、教育を見直しています。「文化と技術の関連の形成」というのは、本当に大事だと思います。脱工業化時代にふさわしい、あたま数で考えるのではない人的資源の中身を真剣に考え、高めていくための努力を真剣にしていく。これがこれからの社会で求められていることだと思います。

堤さん、企業の眼から見てのこれからの人的資本の問題はどのようにお考えでしょうか。

Re^2: 新たな産業創出の必要性 ()

谷 博久

> 神野先生は「岐阜の地域経済の発展を目指す時に、重要なことは原点を見失わないことだと思います。」とされています。

> 例えば、岐阜県は県内地場で産み出す製(商)品でもって、日常生活を送るのに必要な品揃えが概ね出来る希少な県とも言われています。

そういう意味では、岐阜県は既にベースとして、「社会的に有意義な生産」の自己完結的な可能性を内包しているといっても良いかもしれません。

ただ、グローバル化の進展、交通システムや情報通信システムの格段の発展によって、神野先生が言われる「岐阜の生活様式が要求することを、岐阜が内包する人間の能力で充足する。」というような原点を見失い勝ちであります。

この結果、「その文化の充足に技術を革新するというループの形成なくして、無理をした新産業の創出に取り組んでしまうことが 多分にあるということを承知しておかないといけない。

『社会的に有意義な生産』(技術)が『人間の生活様式に起因』(文化)との関連したものであることことを銘記しておきたい。

Re^3: 新たな産業創出の必要性 ()

黒川和美

> 地域には賦存する資源や力量があり、簡単にその枠組みを超えて新たなフロンティアに打って出ることが大きな困難を伴うし、実際可能ではないことは認識されています。

しかし枠組みを広げる工夫はいろいろな地域が試みています。

例えば横浜、もともと大きなポテンシャルを持っていたという人もいますが、横浜にとって対東京昼夜間人口比率は長い間0.8を下回るほど完全に東京のベッドタウンに過ぎませんでした。東京都心を中心にして放射状に広がる地域の一つという位置付けで在ったことは知られています。しかし近年昼夜間人口比率は0.91に達し、首都機能は南に移動しているといわれるほどポテンシャルは高まっています。

空港があるわけでもなく、臨海部は空洞化し、苦労を重ねているにもかかわらず……。MM21、市営地下鉄、高速湾岸線、首都高速などが整備されて、オフィス機能と住居・生活機能が重なり、東京横浜間の交通の利便性が高まって、横浜は経済の自立性を高めています。

もっとも効果があったのは赤字だらけの市営地下鉄です。

あざみ野と湘南台を結ぶこの地下鉄は港北ニュータウン、新横浜、mm21、上大岡、戸塚、と横浜に新しい拠点地域を生み出してきました。累積赤字は大きいけれども、毎年1000億円以上の固定資産税、都市計画税収入増加を生みだしています。どの産業が大きく伸びたというわけではなく、多くの産業はリストラ中です。魅力的な都市生活を提供することにこの公共交通整備は機能していると思われます。

横浜国際サッカー場、センタープール、mm21、ベイサイドマリーナ、上大岡再開発、戸塚・東戸塚再開発、湘南台ターミナルを拠点にこの間新しいスポットがせせこましい自動車交通などを改善し港北ニュータウンが再開発や道路拡幅の受け皿地になってきました。

多分県が実施するのは難しいけれどもTIFのような将来の税収増加を期待してポテンシャルを高める地域開発手法は世界中で試みられています。これは基礎的自治体の連携、いわゆる都市連携に基づく必要があります。EUでは都市間の広域連携が様々に試みられています。

それによって住民の教育機会の拡大、就職機会の拡大、魅力的なライフスタイルの追求、週末の楽しみ、など地域住民の生活ポテンシャルが少しずつ高まっていくのだと思います。

Re^3: 新たな産業創出の必要性 ()
進行(杉田伸樹)

谷さんありがとうございます。

> そういう意味では、岐阜県は既にベースとして、「社会的に有意義な生産」の自己完結的な可能性を内包しているといっても良いかもしれません。

今の経済社会の混迷の根源的なところは、「自分が何をやっているのか、何のために仕事をしているのか分からなくなっている」ことかもしれません。そういう意味では、やった仕事の結果(製造業だったら製品)が自分の身近で使われている、役に立っている、ということが見えるのは、大きな満足になると思われます。

> ただ、グローバル化の進展、交通システムや情報通信システムの格段の発展によって、神野先生が言われる「岐阜の生活様式が要求することを、岐阜が内包する人間の能力で充足する。」というような原点を見失い勝ちであります。

もちろん、およそ人間の行為で人の役に立たないというようなものは考えられないわけ

で、例えば自分の作った製品が近くで使われないにしろ、世の中のどこかで役に立っている、との思いがどこかになればやっていけない訳です。そこまで人間の想像力を伸ばせるかどうか、これからの社会では重要になるし、ひいては競争力にもつながっていくものだと思います。

風土の中で生まれたものの強さが外の世界でも通用するかは、どれだけ外の世界との共感を産み出せるかによるものだと思います。岐阜県がすすめる「グレーター岐阜県」の根底には、岐阜県が外の世界と共感し、外の世界も岐阜県と共感するという思想があります。

Re^4: 新たな産業創出の必要性 ()

進行(杉田伸樹)

黒川先生ありがとうございます。

- > > 地域には賦存する資源や力量があり、簡単にその枠組みを超えて新たなフロンティアに打って出ることが大きな困難を伴うし、実際可能ではないことは認識されています。
- > しかし枠組みを広げる工夫はいろいろな地域が試みています。

こうした工夫にどの地域も踏み出せるようにすることが重要かと思います。

「踏み出せない理由」についていろいろ論議することも可能ですが、そんなことよりは、「踏み出すために必要なものは何か」という姿勢が必要かと思います。おそらく、各地域は「地域を良くしたい」というもやもやした気持ちはあるものの、それが具体的な形にならない、という中途半端なところにあるのかと思います。

他はこんなことをやっている、といったことを知るだけでも勇気が出てくるということがあるかもしれません。これは必ずしも「横並び」ということではありません。横並びの思想は、最初に決められた水準があり、それに有無を言わず合わせる、従わせるということです。

他の例を見て(それもなるべくたくさん)、それから自分にあったものを考え出すということは、横並びの水準の受動的な受け入れとは正反対のところにあるわけです。

これも岐阜県の宣伝のようになってしまいましたが、全国自治体善政競争というのをやっています。<http://www.zensei.jp/>をご覧ください。これは、各地方自治体がやっている取り組みをみんなが分かり易く見られる場所を提供することにより、他の自治体の役に立つようにする考え方です。ある意味で、地方自治体の日頃の努力をボランティアな形で他の自治体にノウハウを提供することになっています。こうしたやり方も重要なのではないのでしょうか。

- > 例えば横浜、もともと大きなポテンシャルを持っていたという人もいますが、横浜にとって対東京昼夜間人口比率は長い間0.8を下回るほど完全に東京のベッドタウンに過ぎませんでした。東京都心を中心にして放射状に広がる地域の一つという位置付けで在ったことは知られています。しかし近年昼夜間人口比率は0.91に達し、首都機能は南に移動しているといわれるほどポテンシャルは高まっています。
- > 空港があるわけでもなく、臨海部は空洞化し、苦勞を重ねているにもかかわらず・・・。MM21、市営地下鉄、高速湾岸線、首都高速などが整備されて、オフィス機能と住居・生活機能が重なり、東京横浜間の交通の利便性が高まって、横浜は経済の自立性を高めています。
- > もっとも効果があったのは赤字だらけの市営地下鉄です。
- > あざみ野と湘南台を結ぶこの地下鉄は港北ニュータウン、新横浜、mm21、上大岡、戸塚、と横浜に新しい拠点地域を生み出してきました。累積赤字は大きいけれども、毎年1000億円以上

の固定資産税、都市計画税収入増加を生みだしています。どの産業が大きく伸びたというわけではなく、多くの産業はリストラ中です。魅力的な都市生活を提供することにこの公共交通整備は機能していると思われます。

- > 横浜国際サッカー場、センタープール、mm21、ベイサイドマリーナ、上大岡再開発、戸塚・東戸塚再開発、湘南台ターミナルを拠点にこの間新しいスポットがせせこましい自動車交通などを改善し港北ニュータウンが再開発や道路拡幅の受け皿地になってきました。
- > 多分県が実施するのは難しいけれどもTIFのような将来の税収増加を期待してポテンシャルを高める地域開発手法は世界中で試みられています。これは基礎的自治体の連携、いわゆる都市連携に基づく必要があります。EUでは都市間の広域連携が様々に試みられています。

都市間の広域連携という考え方は確かに魅力的です。私の考えていることが間違っていたら訂正してほしいと思うのですが、これまでの地方自治体の行政の考え方は、面積的守備範囲に限なく、ということだったのではないかと思います。したがって、成長の核と核をつないでという考え方は最も苦手だったのではないかと思います。

交通の問題もこうした観点で考え直すことが重要かと思えます。

- > それによって住民の教育機会の拡大、就職機会の拡大、魅力的なライフスタイルの追求、週末の楽しみ、など地域住民の生活ポテンシャルが少しずつ高まっていくのだと思います。

一方で、都市内の交通については、地域住民の生活重視という観点が必要です。おっしゃられる通り、地域住民の生活ポテンシャルを向上させるようなインフラとしての交通体系について考えなければいけません。

Re^3: 新たな産業創出の必要性 ()

谷 博久

- > > 神野先生は「岐阜の地域経済の発展を目指す時に、重要なことは原点を見失わないことだと思います。」とされています。例えば、岐阜県は県内地場で産み出す製(商)品でもって、日常生活を送るのに必要な品揃えが概ね出来る希有な県でもあるとされています。
- > そういう意味では、岐阜県は既にベースとして、「社会的に有意義な生産」の自己完結的な可能性を内包しているといっても良いかもしれません。
- > ただ、グローバル化の進展、交通システムや情報通信システムの
- > 格段の発展によって、神野先生が言われる「岐阜の生活様式が要求することを、岐阜が内包する人間の能力で充足する。」というような原点を見失い勝ちであります。
- > この結果、「その文化の充足に技術を革新するというループの形成なくして、無理をした新産業の創出に取り組んでしまうことが多分にあるということ」を承知しておかないといけない。
- > 『社会的に有意義な生産』(技術)が『人間の生活様式に起因』(文化)との関連したものであることことを銘記しておきたい。

スウェーデンでの『IT産業』の発達、国土が広く、分散して生活しているスウェーデンの人間の生活様式に起因し、地域経済の<振興に『IT』は欠かせなかったという。

神野先生の言葉を借りれば、繰り返しになるが、(1)文化と技術の関連の形成 (2)社会的に有意義な生産 という観点から、例えば、『ロボット産業』、『バイオテクノロジー産業』、『ナノテクノロジー産業』などの振興が、なぜ岐阜県で必要なのか、或いは岐阜県という地域で振興しなければならないのか。という問いかけは、自然発生的でない限り、今後の、地域のあらゆる『新産業おこし』にとって、共通の問いかけであると考えられる。

このような観点から、再度、足元を見直し、地域社会を見渡して行くと、足が地に着いた上記(1)～(2)を満足するような『新産業おこし』に到達するのではないかと考える。

課題は、グローバル化、世の中のベクトル、流れ・トレンド等との均衡であるが、ここは岐阜県の政策判断の次元になって来るものと考えたい。

Re^4: 新たな産業創出の必要性()

進行(杉田伸樹)

谷さんありがとうございます。

> 神野先生の言葉を借りれば、繰り返しになるが、(1)文化と技術の関連の形成 (2)社会的に有意義な生産 という観点から、例えば、『ロボット産業』、『バイオテクノロジー産業』、『ナノテクノロジー産業』などの振興が、なぜ岐阜県で必要なのか、或いは岐阜県という地域で振興しなければならないのか。という問いかけは、自然発生的でない限り、今後の、地域のあらゆる『新産業おこし』にとって、共通の問いかけであると考えます。

「産業」という名前ができてしまうとそれだけで何か新しい産業起こしができてしまうような錯覚に陥らないようにする必要があります。既存の産業分類や産業名から発想するのではなく、「世の中で何が必要とされているのか」について真剣な検討が必須であることを神野先生も谷さんも強調されているのだと考えています。

優れたセールス戦略の基本は、相手の問題をよく理解すること、と言われていています。潜在的な顧客の問題の解決にこちらが何を提供できるか示すことができれば、潜在的な顧客は本当の顧客になります。こうした考え方は産業振興に当たっても基本的です。

> このような観点から、再度、足元を見直し、地域社会を見渡して行くと、足が地に着いた上記(1)～(2)を満足するような『新産業おこし』に到達するのではないかと考える。課題は、グローバル化、世の中のベクトル、流れ・トレンド等との均衡であるが、ここは岐阜県の政策判断の次元になって来るものと考えたい。

岐阜県は「グレーター岐阜県」という考え方をすすめています。岐阜県の友達を世界中に作る、と言ってしまうとあまりに単純化してしまうのかもしれませんが、実際そうです。グローバル化との均衡は難しい問題ですが、グレーター岐阜県はその一つの鍵となるのではないかと考えています。

地域経済の活性化について

黒川和美

どのように参加すれば良いかわからず沈黙を守ってきました。

地域を活性化させるという課題に取り組んでいるところは数多くありますが成功失敗を判断するのはとても難しい問題です。

活性化をテーマに悩む人がいること自体大きな一歩を踏み出しているし、そんな悩みを共有する人が増えていけば成功に一步一步近づいているということが出来る。商店街の多くの関係者が何とかしなければと思っていれば概ね成功です。しかし、各商店主のそれぞれの経営戦略が的を得ているかどうかは重要で、誰から見ても成功という水準に近づいていきます。恐らく行政がどう関わったかといった問題は行政の固有の問題で行政に与えられた自分の役割をどれだけ忠実に果たすことができたのかという点が重要でそれ以上では

在りません。

消費者も商店主も行政もそれぞれが感じたことを課題にし、克服の努力をしていきます。環境問題に造詣が深い人、福祉問題に興味を持つ人、国際社会に興味を持つ人がそれぞれに個性を発揮して地域でできる範囲の努力水準で行動を興すことができれば、それが競争を呼び、仲間を増やし、アピールを強め、一人一人の魅力と共に地域は動いて見えるのだと思います。

誰かが優れたプログラムを提示するのを待っている人ばかりがいて実際に行動に移っている人が少ないのです。地域社会というマクロは一人一人の市民ミクロの合計です。タイミングを計りことができればそれは運動になるかもしれない。まずは一人の人が二人分の努力をすることで何かが始まっていく。結果も目標も初めのうちは立てられない代物なのでと思います。

ミクロの集積が大それたことを可能にする力を作り出すことは殆どないでしょう。地域にあったという表現は社会を構成する一人一人がその力量を発揮できる環境を持っているという意味であり、棚からぼた餅的成功を誰かがもたらすものではないのです。

一人一人のエフォートレベルを高めるのは連帯感や競争意識でその背景にネットワークやコラボレーションスキームがあるかもしれませんがそれらは自生的Spontaneousで、Politicentricityなのです。

Re: 地域経済の活性化について
進行(杉田伸樹)

黒川先生ありがとうございます。

> どのように参加すれば良いかわからず沈黙を守ってきました。

分かりにくかったかもしれないのは申し訳ありません。

一度、口火を切っていただいたら後は皆さんも参加していただけるのではないかと期待しております。

> 地域を活性化させるという課題に取り組んでいるところは数多くありますが成功失敗を判断するのはとても難しい問題です。

おっしゃられる通り、何につけても評価というのは難しいものです。特に、形にできないものや数値化できないものはどうしても主観的な要素が入らざるを得ず、ともすれば「客観性があるのか」という議論に終始してしまう可能性があります。

> 活性化をテーマに悩む人がいること自体大きな一歩を踏み出しているし、そんな悩みを共有する人が増えていけば成功に一歩一歩近づいているとすることができる。商店街の多くの関係者が何とかしなければと思っていれば概ね成功です。しかし、各商店主のそれぞれの経営戦略が的を得ているかどうかは重要で、誰から見ても成功という水準に近づいていきます。恐らく行政がどう関わったかといった問題は行政の固有の問題で行政に与えられた自分の役割をどれだけ忠実に果たすことができたのかという点が重要でそれ以上では在りません。

このパラグラフの最初の文章がとても大事なことと思います。前パラに関して私の書いた評価の難しさを一つ越えるためのヒントがこの文章に表れているのではないかと思います。つまり、「悩みを持っていることを自覚し」、「その悩みを地域で共有する」という共

感の回路ができるようになれば、活性化のための第一歩を踏み出しているのではないのでしょうか。行政についてのコメントも心していなければならないことと思います。

- > 消費者も商店主も行政もそれぞれが感じたことを課題にし、克服の努力をしていきます。環境問題に造詣が深い人、福祉問題に興味を持つ人、国際社会に興味を持つ人がそれぞれに個性を発揮して地域でできる範囲の努力水準で行動を興すことができれば、それが競争を呼び、仲間を増やし、アピールを強め、一人一人の魅力と共に地域は動いて見えるのだと思います。
- > 誰かが優れたプログラムを提示するのを待っている人ばかりがいて実際に行動に移っている人が少ないのです。地域社会というマクロは一人一人の市民ミクロの合計です。タイミングを計りことができればそれは運動になるかもしれない。まずは一人の人が二人分の努力をすることで何かが始まっていく。結果も目標も初めのうちは立てられない代物なのだと思います。
- > ミクロの集積が大それたことを可能にする力を作り出すことは殆どないでしょう。地域にあったという表現は社会を構成する一人一人がその力量を発揮できる環境を持っているという意味であり、棚からぼた餅的成功を誰かがもたらすものではないのです。
- > 一人一人のエフォートレベルを高めるのは連帯感や競争意識でその背景にネットワークやコラボレーションスキームがあるかもしれませんがそれらは自生的Spontaneousで、Politiclicityなのです。

乱暴な言い方でまとめてしまうと、「全体の構図ができるのを待っているは何もできない。それぞれの構成員が努力をする必要がある。その努力が全体を良くするように働くためには、そのための環境がなければいけない。」とでも言うことでしょうか。まさしくそのとおりだと思います。

岐阜県はつねづね、「国がやるのを待っているは何もできない。岐阜県は県民の生活を守るために、率先して単独航海をしていく。」ということを強調、実践しています。これにも通じる考え方かと思います。

地域の選択；連携と可能性の広がり

黒川和美

私は今欧州や米国の都市連携について調べています。地域連携は自生的に生まれるものですが、以前の産業構造や都市機能の依存したネットワーク構造、例えば交通システムが全体構造が変化しても気づかないうちに置き去りにされていて、その上で新産業構造を再構築するといった無理が生じている。岐阜県の各都市間の移動は各都市の現在の都市機能や経済ポテンシャルを顕在化させるのに有効に機能しているだろうかという視点です。岐阜県は東海道の交通の通過点として東名阪に接続することが第一の判断要素、更に名古屋を中心とした大都市圏の放射状の交通機能が第二の判断要素、更には世界と結びつための空港アクセスなど。世界の都市では放射状からセカンドベルトへ、郊外都市同士を機能的に接続すること。中心都市間を短時間で結びつけるシャトル交通、自動車に依存しない高速トラム、LRT、都心へ容易にアクセスできるコミュニティバスのシステムが機能的にリンクすることなどが試みられています。

大都市圏の都心に混雑を覚悟でリンクする交通体系が大きなりスクを生み出している可能性もあります。この交通の考え方は情報問題にも、労働問題にも行政システムにも当てはまります。構造改革といわれていますが慣れてしまった安定したシステムが結果として飛躍を妨げていることとなります。東京大都市圏では正に先ず交通システムの見直しが進んでいると認識しています。

Re: 地域の選択；連携と可能性の広がり
進行(杉田伸樹)

黒川先生ありがとうございます。

都市連携のテーマは大変興味深いものです。

交通ベースの連携について議論する前に、一つだけご紹介したいものがあります。岐阜県では、「連携」については、「海外直結戦略」、あるいは「グレーター岐阜県」といった考え方を打ち出しています。中央政府（東京）を経由しないで、海外と岐阜県が直に結びつこうと言うもので、この背景には情報通信の発達により、海外との連携が飛躍的にハードルが低くなったことがあるのではないかと思います。そして、色々なところに岐阜県と連携したいところが増えてくることにより、「グレーター岐阜県」の実現を目指すという考え方になっています。「交通」と「情報通信」の重要性の比較に関して、後者の役割が飛躍的に高まっている（と同時にそのための技術的、コスト的ハードルが劇的に低下している）ことが基本にあります。

この基本的認識の上に、交通の問題を考えて見たいと思います。交通の問題は地域に近いほど地域住民の福祉の観点からは重要になります。上に述べた海外との連携戦略とはある意味で反対の視点が必要になると思います。

まず、日本の国土の交通ネットワークの観点から岐阜県を考えると、先生がおっしゃられる通り、東海道の交通の通過点として東名阪に接続するというアドバンテージがあります。これに、東海北陸自動車道を加えることにより、ネットワークの利点を生かせるようになります。

名古屋圏ということで考えると、まず、岐阜は名古屋から鉄道で18分というきわめて近接した位置にあります。したがって岐阜市は否応なしに、名古屋との関係を考えざるを得ない立場に置かれています。一方、岐阜市が岐阜県の主要都市の連携の中枢性を持ちえるか（交通面で）というと、特に東濃の都市（例えば多治見や中津川）へのアクセスはかなり不便であるという状況です。東海環状道路はこうした状況を改善するのに役立つと思われるし、先に述べた国土交通体系の面から見ても、名古屋を通らない幹線ルート確保という重要性があります。

都市内～都市間の交通に関してはかなり厳しい状況があります。例えば、名鉄の市内線や岐阜市～関市間は、名鉄側より廃止の意向がすでに表明されています。

こうした中で、岐阜県は「公共バス優先市街地活性化対策（コミバス作戦）」（http://www.pref.gifu.jp/gib/7_lib/governor/g034.htmをご覧ください）を来年度の重要課題としています。地域の交通は地域の住民の生活の基本的なインフラと考え、その中で、公共バスを位置づけています。

このような考え方で、岐阜においても交通体系について新しい発想で常に見直しを進めていることをご紹介させていただきました。

Re^2: 地域の選択；連携と可能性の広がり
堤 俊彦

進行役の杉田さんから発言を向けられたのに、こんなに登場が遅れて申し訳ありません。

日本各地に若手(?)経営者を集めた寺小屋的な経営塾が数多くありますが、大垣市にもイビデン(株)の相談役、多賀潤一郎氏を塾長とした18人の会「多賀塾」が在り、10年以上前より隔月で開催し、読書会を通して勉強することを継続しています。偶然、今年の1月24日の多賀塾の課題図書は、神野先生の「地域再生の経済学」でした。多賀塾での神野先生の本は難解でしたが、塾生の感想の大半は評価の高いものでした。また、考え方の背景に著者の情熱を感じるといった意見も多くありました。そんな状況の中で今回、会議

の一員となったことに不思議な縁を感じています。ただし、私のレベルでは議論されている内容が大変難解であり、どのように意見を出していけば良いのか解らなかつたというのが事実です。そして会議の流れを見ていて、黒川先生から都市連携の中での「交通システムの見直し」の話題があり、少し話せると思いやっとなら参加させてもらいました。

実は私は4月より、岐阜県経済同友会の筆頭代表幹事を受けさせて頂きましたが、その調査・提言事業の中に「公共交通を考える委員会」を設置します。そして我が国は道路建設の抑制、環境保全などの面から将来は否応なく公共交通への依存度が高まると考えられますので、車に代わる交通手段(公共交通)について検討してみたいと考えています。また、この委員会では現在の公共交通の課題を踏まえ、まちづくり(中心市街地の活性化)、高齢者の社会参加などについて議論し、望ましい公共交通の在り方についても検討していこうと思います。

Re^3: 地域の選択；連携と可能性の広がり
進行(杉田伸樹)

堤さん、書き込みありがとうございます。

多賀塾については、つねづねその評判を伺っています。お忙しい社業の中でもそうした時間を常に確保して、社会との接点を企業経営者の視点から持っておられることは素晴らしいことだと思います。

神野先生には昨年12月にソフトピアで講演とパネルディスカッションをお願いしました。多くの方にご出席いただき、大変盛況だったのは主催者としてうれしい限りです。

交通に関しても地域再生の観点から考えることが重要というのは言うまでもないことです。車社会がどんどん進む中で公共交通機関が衰退し、それに伴い地域が疲弊するというサイクルが日本各地で進んでいます。特に地方ではそうした動きが顕著になっています。

公共交通の持つ地域作りでの役割をもう一度考え直し、地域再生、人間回復のためのまちづくりという視点から交通政策も見直しをすることが必要です。

在の経済・社会環境ではuphill battleであることは目に見えていますが、もう一度原点に立ち戻って見ることをしないと現在の閉塞状況は抜け出すのが難しいと思います。

議題2 「公的部門のあり方」

議題2 「公的部門のあり方」
進行(杉田伸樹)

議題2は「公的部門のあり方」というタイトルがついています。

ここでの論点は以下のようなものです。

地域経済社会の活性化のために、どのような方策が考えられるかが問題となっています。こうした方策の担い手として大きく分けて民間部門と公的部門があると思います。

おそらく現在の日本の考え方は、「民間活力重視」なのかなと思っているのですが、一方でそれだけで良いのかという疑問があることも事実です。

私どものセンターでは昨年12月に、神野先生他をお招きして、スウェーデンモデルについて講演会・シンポジウムを開催したのですが、現在の日本を覆っている「市場経済至上主義」あるいは「市場経済原理主義」に対して、公的部門の果たす役割をもう一度認識して、きちんとした位置づけをするということの重要性を強調したのではないかと思います。

す。

公的部門の果たすべき役割については、当然、神学論争的な部分もあるかと思いますが、ここではあまり原理的な議論に拘泥することのないようにしたいと考えています。

議論の最初にご発言いただくのを、どなたにしようかと思ったのですが、ここで進行役の権限で堤さんをお願いしたいと思います。堤さんは民間の会社の社長として公的部門に対してどのように感じておられるか、といったこと等を含めて議論の口火を切っていただくと有難いと思っています。

もちろん、その他の方もどんどん発言していただいても大歓迎です。

議題 3 「岐阜モデルの提案」

議題 3 「岐阜モデルの提案」

進行(杉田伸樹)

議題 3 は「岐阜モデルの提案」というタイトルです。

岐阜県は、これまでの中央依存、護送船団方式から地方がそれぞれ自分の力で単独航海をしていく方式に変えていく努力をしています。国からの画一的な政策の押付けから、地方がそれぞれ考え、それぞれ実施していくようにしていきたいと考えています。

こうした努力を日本のすべての地方自治体がしていけば、これが日本を変えていく原動力になるはずであるという信念です。この思想の具体的な実践の場の一つが、「全国自治体 善政競争・平成の関ヶ原合戦」<http://www.zensei.jp/> です。

各地方が独自に考え、独自に実行していく気運を高めることが本当の意味での地方分権なのではないでしょうか。

この議題では、岐阜独自の考え方「岐阜モデル」をどのように構築していくかを中心に考えていきます。

八嶋先生は岐阜の地で、産官学連携の仕事をなさっています。ある意味で、岐阜の総力を挙げて岐阜を良くしていくにはどうしたら良いかを考え、実践しておられると思います。そうした観点から、「岐阜モデル」という考え方についてどのように思われるか教えていただくと助かります。

黒川先生は日本各地や外国での地域活性化の取り組みについて様々な例をご存知かと思います。そうした例なども教えていただくと良いかなと思っていますので、よろしく願いいたします。

Re: 議題 3 「岐阜モデルの提案」

八嶋 厚

> 八嶋先生は岐阜の地で、産官学連携の仕事をなさっています。ある意味で、岐阜の総力を挙げて岐阜を良くしていくにはどうしたら良いかを考え、実践しておられると思います。そうした観点から、「岐阜モデル」という考え方についてどのように思われるか教えていただくと助かります。

4つの例をお示ししたいと思います。

1. 社会基盤研究所：

岐阜県内の中小の建設関連業界のイノベーションを行うため、(財)岐阜県建設研究センター、岐阜大学社会基盤工学科教官が研究員となり、社会基盤研究所を平成14年12

月に設立した。研究を担当する教官は、兼業届けを提出しており、正規の研究者として活動できるところに強みがある。土砂降り状態の建設業にあって、大手と対抗できる研究機能を有する中小建設業の新しい構想である。平成15年3月末現在で11の研究プロジェクトが承認されている。全国的にみても例のない研究組織である。

2. G I I S (岐阜産業イノベーションシステム)

1. の社会基盤研究所と目的を同じくするが、全産業を対象としている。岐阜大学教官760名と岐阜県公設研究所研究員280名、総計1,000名の研究者が岐阜県内の中小企業の皆様方のために、研究プレーンとして働こうとするシステムである。この中で、平成14年度においては、岐阜大学産官学融合センター内、ユビキタス環境での会議システム、研究データベース構築を実施した。平成15年度当初より、画像と音声を用いた電子会議システムを広く県内に広報し、高頻度、高密度、ユビキタスな技術相談、共同研究の推進を行う。

3. 岐阜地域高等教育研究者一覧と岐阜地域産官学連携推進協議会(予定):

岐阜市経済部の音頭取りで、岐阜地域12大学・高専の教育研究者一覧を作成し、平成15年3月24日に刊行した。岐阜地域の中小企業の産構審港の一助となれば幸いである。また、地域12大学・高専で産官学連携に関する密接な相互補完を実施できる体制作りとして、平成15年度に産官学連携推進協議会を設立し、各大学・高専の研究者、事務官が同じミッションのもとで、実働できるようにしたいと考えている。

4. 知的財産評価機構(NPO組織)(予定):

目利き、研究者、銀行、弁理士、コンサルタント等々からなる知的財産評価機構をNPO組織として設立したいと考えている。活動としては、

平成15年度: NPO組織の立ち上げ

平成16年度: 岐阜大学および地域の大学、高専、公設研等の知的財産評価

平成17年度以降: これらの高等教育機関の知的財産の評価を行うだけでなく、地域企業の有するノウハウ、技術、暗黙知などについても評価を行い、知的財産担保を保証するシステム作りをめざしたい。これにより、中小企業等は知的財産による融資受け入れが可能となる岐阜地域としたい。

以上の4点以外にも、岐阜大学産官学融合センターでは、新しい岐阜モデル構築に向けて、常に構想を練っています。

Re^2: 議題3「岐阜モデルの提案」

進行(杉田伸樹)

八嶋先生ありがとうございます。お待ちしております。

4つの例はどれも興味深いものです。それぞれについて、コメントする能力は私にはないので詳しくは、岐阜大学産官学融合センターのホームページ

<http://www.cive.gifu-u.ac.jp/~liaison/>

をご覧くださいただけたらと思います。

> 4つの例をお示ししたいと思います。

> 1. 社会基盤研究所:

> 岐阜県内の中小の建設関連業界のイノベーションを行うため、(財)岐阜県建設研究センター、岐阜大学社会基盤工学科教官が研究員となり、社会基盤研究所を平成14年12月に設立した。研究を担当する教官は、兼業届けを提出しており、正規の研究者として活動できるところに強みがある。土砂降り状態の建設業にあって、大手と対抗できる研究機能を有する中小建設業の新しい構想である。平成15年3月末現在で11の研究プロジェクトが承認されている。

全国的にみても例のない研究組織である。

中小（あるいは地場）建設業の厳しさは私もかねがねさまざまな方から伺っています。企業として生き延びていくための方向として重要なものと思います。

> 2. G I I S（岐阜産業イノベーションシステム）

> 1. の社会基盤研究所と目的を同じくするが、全産業を対象としている。岐阜大学教官760名と岐阜県公設研究所研究員280名、総計1,000名の研究者が岐阜県内の中小企業の皆様方のために、研究プレーンとして働こうとするシステムである。この中で、平成14年度においては、岐阜大学産官学融合センター内、ユビキタス環境での会議システム、研究データベース構築を実施した。平成15年度当初より、画像と音声を用いた電子会議システムを広く県内に広報し、高頻度、高密度、ユビキタスな技術相談、共同研究の推進を行う。

> 3. 岐阜地域高等教育研究者一覧と岐阜地域産官学連携推進協議会（予定）:

> 岐阜市経済部の音頭取りで、岐阜地域12大学・高専の教育研究者一覧を作成し、平成15年3月24日に刊行した。岐阜地域の中小企業の産構審港の一助となれば幸いである。また、地域12大学・高専で産官学連携に関する密接な相互補完を実施できる体制作りとして、平成15年度に産官学連携推進協議会を設立し、各大学・高専の研究者、事務官が同じミッションのもとで、実働できるようにしたいと考えている。

私もこの研究者一覧を拝見させていただきました。こうした取り組みをそれぞれの主体が実施していくとともに、全体を見渡すことができる場所を作ることも必要かと思えます。この場所はリアルなもの、バーチャルなもの、いろいろ考えられます。「岐阜県の産官学連携ポータルサイト」と言うようなものも一つのアイデアとして考えられるのではないのでしょうか。

> 4. 知的財産評価機構（NPO組織）（予定）:

> 目利き、研究者、銀行、弁理士、コンサルタント等々からなる知的財産評価機構をNPO組織として設立したいと考えている。活動としては、

> 平成15年度：NPO組織の立ち上げ

> 平成16年度：岐阜大学および地域の大学、高専、公設研等の知的財産評価

> 平成17年度以降：これらの高等教育機関の知的財産の評価を行うだけでなく、地域企業の有するノウハウ、技術、暗黙知などについても評価を行い、知的財産担保を保証するシステム作りをめざしたい。これにより、中小企業等は知的財産による融資受け入れが可能となる岐阜地域としたい。

これも面白い構想です。知的財産を改革の核にすることでブレークスルーを目指すといったら大げさすぎるかもしれませんが、これからの知恵社会の原点があります。産業経済振興センターも積極的に貢献していきます。

> 以上の4点以外にも、岐阜大学産官学融合センターでは、新しい岐阜モデル構築に向けて、常に構想を練っています。

新たな取り組みを楽しみにしています。そして、そうした取り組みがどんどん世の中に知られていくことが必要かと思えます。地方から改革の風を起こしていきます。

Re^3: 議題3「岐阜モデルの提案」

八嶋 厚

杉田理事長様：

> 私もこの研究者一覧を拝見させていただきました。こうした取り組みをそれぞれの主体が実施していくとともに、全体を見渡すことができる場所を作ることも必要かと思えます。この場所はリアルなもの、バーチャルなもの、いろいろ考えられます。「岐阜県の産官学連携ポータルサイト」と言うようなものも一つのアイデアとして考えられるのではないのでしょうか。

勉強不足で申し訳ございません。「産官学ポータルサイト」のイメージをもう少し具体的にお教えいただけないでしょうか？おもしろそうなのですが、イメージがわかりません。大学でご協力できるようであれば、いろいろと考えてみたいと思います。

箱ものや資料ばかり作っていてもなかなか実を結びません。やはり大切なものは、人材であると考えています。岐阜大学産官学融合センターでは、平成15年度にISO9001を取得を目指します。これにより、知的財産創出・管理業務に関するPDCAフローを確立し、大学の知的財産による技術移転（顧客満足）を向上させる品質マネジメントプロセスを構築しようとするものです。最初から大風呂敷をひろげても大変ですので、平成15年度は、リエゾン部門と契約事務部門に関してISO取得を目指します。平成16年度以降、順次ISO取得部門を拡大し、インキュベーション部門、マネジメント部門、技術移転部門、バーチャル・システム・ラボラトリ部門についてもISOを取得していきます。

技術コンサルティング、技術移転の顧客は地域の皆様方です。CS型産官学融合センターを目指して頑張っていきたいと思えます。